

させられました。もし私が曾祖父のように戦争体験者だたら、おそろしい戦争のことはすぐに忘れたいと思うかもしれません。しかし、曾祖父は私にこう教えてくれました。『おじ』は早く悲劇を忘れてしまいたいが多くの犠牲者の上にある平和を思うと、忘れてはいけません。と。

毎年、終戦記念日に近づくにつれ、曾祖父の体調はすぐれないそうです。それは、いくら豊かな時代になっても、戦争といふ悲惨な時代を過ごしてきた曾祖父は、まだ心に深い傷を負ったまま七一年を生き延びてきたからだと思えます。

曾祖父は私に、自分のつらい戦争体験を語ることで、「幸せになつてほしい。命をそまつにしてはいけない。平和であるということはいずれの人に対して幸せを与えるものだ」ということを「教えてくれたのだ」と思っています。そしてこれからも二度と同じ誤ちをおかさな

いでほしいという願いで、私達に伝えてくれ
ただと思います。
私達がその思いを大切にしてい、これからの
未来を守っていかねばなりません。文化
を継承すると同様に、平和も継承していくべ
きなのです。日本だけでなく、全世界が戦争
のない、平和な未来を築くことができる力を
私達はもっていると思います。戦争を起こす
のも人間。平和を守るのも人間。戦争のない
平和な時代に生まれてきたからこそ、戦争に
よって多くの命が犠牲になったことを、決っ
して忘れてはいけません。そして、平和への
思いを継承していかないといけないのです。
曾祖父の思いを継承していくことで、少しで
もその心の傷をいやしてあげられたらと思い
ます。
幸せは、目には見えません。目で見るもの
ではなく、心で感じるものだからこそ、相手
を思いやる心と平和への感謝を忘れてはいけ
ないと思います。

